

souldier™

エレクトリック・ギターを購入すればいろんなモノが必要になってきます。まずはアンプ、エフェクター、シールドなど...。これらについては目指すサウンドを手に入れるために当然皆さん日夜研究を重ねておられることでしょう。次にコダワルのが弦やピックでしょうか。これらも実際にプレイする時に手元のフィット感を左右しますから必ず自分好みの好みがあるはず。しかし、ストラップについては意外に無頓着な方が多いのはなぜでしょうか。こだわる方は幅の広さや材質などという自分なりのチェック・ポイントをお持ちのようですが、「とりあえず使えれば何でもいいや〜」なんて人も多いいはず。音に関係ないと言えどもそれまででしょうが、それでは芸がなさすぎます。よく考えてみましょう。人前に出て演奏する時には服装を気にしますよね。だから使用するギターの機種やカラーによって、またその日の洋服によってストラップもコーディネートされるべきだと思いませんか？ましてや特定のギタリストやバンドのコピーをしているのであればコスプレの一環として気を配ることも必要になってまいります。とは言いましても、それだけの意識を持ってギター・ストラップが製造され供給されてきたかと言えはささか疑問でもあります。これまでの製品には細かいところまでファッション性やビンテージ性を求める人には物足りない点があったのかもしれない。ならばということで登場したソルジャー社のギター・ストラップとは...？

こだわりのメーカー、ソルジャー

ソルジャー社はアメリカのシカゴにあるハンド・メイドのストラップ・メーカーです。ちなみにカメラやパンツ、サックスなどのストラップも製造しているようです。このメーカーはたいへん機能性とファッション性の高いストラップを製作しており、生地選びからカット、デザインなど全ての工程をハンドメイドで提供することで注目を集めています。さて、このメーカーがギター・ストラップを製造するにあたり目指すモノとは...？ それはズバリ70〜80年代に作られていた、今となっては幻の製品「エース・ストラップ」なのです。この時代にはそれほどギター・ストラップのメーカー自体がなかったということもありますが、当時のミュージシャンは皆こぞこのメーカーのストラップを使っていた。ジミー・ペイジ、ジェフ・ベック、エリック・クラプトン、ジミ・ヘンドリックス、カルロス・サンタナ、キース・リチャーズ、ジョー・ウォルシュ、デュアン・オールマン、ビート・タウンゼント・ジョン・レノン...写真で確認すればするほど使っていない人がいないくらいこのストラップは浸透していたことがわかります。いろいろな種類の柄や色がありま

すが、共通しているのは美しいジャガード織りであることです。これを復興させるのがソルジャー社の夢なんだそうです。このエース・ストラップはその後ランドリア社というニューヨークにある弦や小物の会社に買収されましたが、結局今となってはストラップは作っていません。ギター・ストラップの流行が革に移行したことや、ジャガード織りの機械がだんだんなくなってきたことも原因の一つでしょうが誠に残念なことです。

レギュラー・シリーズ

ギター・ストラップの製作にあたり、ソルジャー社は2つのラインナップを設けています。まず、レギュラー・ラインであるオリジナル・シリーズ。ウ・インテージ柄ではありませんが、40種を超えるデザインはどれも今までにない鮮やかな配色でファッション性の高さが特徴です。たくさんギターをお持ちの方は使用するギターによりストラップを使い分けるもよし、ギターを1本しか持っていない方もその日の服装により着せ換え感覚で選ぶのも楽しいと思います。バックルは現在主流のプラスチックではなく本格的に昔ながらのメタルを使用しています。裏地はシートベルトの素材でできており薄くて軽量、しかも丈夫そう。さらに特筆すべきは裏地やタグまでが表の色に対応した配色であること。普通ならコストの理由から表地がどんな色であれ裏やタグは共通の色で済ましてしまうところですがこういう細かい点こそが今までありそうでなかった嬉しい配慮です。価格は5,500円、8,500円、9,800円という高価で2,000円前後の大量生産品に比べれば少々高価。しかし実物を手に取って見れば絶対に納得できるはず。

ヴィンテージ・レプリカ・シリーズ

昔から大まかに雰囲気成真る程度の製品は存在しましたが、決してコピーと呼べるレベルではありませんでした。ようやく近年になってレプリカ・モデルと呼べる製品が現われましたが、エンド部のタグが長かったり、裏地がスエードだったり、リベットが当時のモノより大きかったりといった具合に細かい所で納得がいかず実に惜しいと

いうのが実情でした。どうせなら完コピを期待するのが人情というもの。その点、ここに紹介するソルジャー社のヴィンテージ・レプリカ・シリーズは40年前のヴィンテージ生地を使い、裏側もオリジナルと同じく合皮を使用し、タグやリベットのサイズまでもオリジナルに忠実に再現しています。それぞれ付けられたネーミングも「クラブトン・グリーン」なんて具合に使用していたギタリストを連想することができてとても楽しい。エース・ストラップの刻印だったスベードのマークまで入れるのはさすがに無理とはいへるまでも望めばバチが当たります。現在このブランドが存在するならばきっとこんなふうにならされたことでしょう。もちろんメタルのバックルを使用。メタルのバックルは「ギター本体に当たると傷がつく」なんて理由から一時は敬遠されたりしましたが、傷も経年変化の証しと考えればそれほど気にすることもないのでは...？ 難点はたいへん貴重な生地を使っているため材料がなくなれば生産できなくなるといこと。だからあるうちに買っておかないと、なくなってから欲しがっても知りませんよ(笑)。10,800円という価格は大いに納得できま

さあ、ホームページなどで製品のデザインや色合いを確認したら改めて70年代のギタリストたちの写真やビデオをチェックしましょう。どうでしょうか？同じモノが欲しくなってきたでしょう？。それならあなたもストラップ開眼です。だいたい、ギター本体には高いお金をかけながらストラップは何でもいはいはありますがありません。ジーンズに例えるなら通常品とブランド品のような違いです。そういう意味では、この製品は通常のストラップ売り場ではなくギター本体の売り場でギター1本1本にコーディネートしてセットしておくべきでしょうね(笑)。ストラップ一つを取り替えるだけで1本のギターを弾くことが何倍も楽しくなります。ぜひ皆さんも試してみてください！とりあえず僕は当時の写真をたよりにジェフ・ベックが使用していた色と柄のモノを購入することにします(笑)。

